

あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス

(五十音順)

番号	団体名 (主な活動場所)	取組名称	取組概要
1	愛知県立愛知商業 高等学校ユネスコ クラブ (名古屋市東区)	ミツバチと創る持続 可能な地域と未来 ～未来へつながる 10 年の軌跡とこれから の歩み～	校舎屋上で養蜂を行い、蜂蜜を地 域ブランド化。蜂蜜を使った社会貢 献型商品の開発・販売等を通じ、生物 多様性を身近な生活の中で実感でき る取組みを実施。
2	愛知製鋼株式会社 (東海市)	つなぐ・つながる・大 きく広がる 愛知製 鋼の生物多様性保全 活動	知多半島の地域の行政・NPO・企業 等との連携を図り、生物多様性保全 活動を展開。自社緑地(東海市)では 2012年から自然生態園を目指して生 物多様性整備を実施。また、美浜町や 東浦町において竹林整備や里山整備 を実施。
3	豊田市立五ヶ丘東 小学校 (豊田市)	自然と人とが共生す るふるさと“五東 <small>ごとう</small> の 里”をつくろう	2005年に校内に約660平方メー トルのビオトープを造成し、多様な動 植物が生息できる環境づくりを行 い、全学年で体験学習に活用。ビオト ープ管理マニュアルを作成し、専門 家も入り継続的に維持・管理。
4	命をつなぐ PROJECT (東海市、知多市)	命をつなぐ PROJECT	知多臨海工業地帯の10キロメー トルにわたる工場緑地において、2011 年から学生、NPO、企業、行政、専門 家などが連携し、知多半島の生態系 ネットワーク形成に向けて、アニマ ルパスウェイの新設、ビオトープ創 出・整備、外来種駆除等を実施。
5	特定非営利活動法 人表浜ネットワー ク (豊橋市)	愛知県のウミガメ産 卵地保全活動「ウミガ メの為の砂浜づくり」	2005年から表浜海岸でウミガメの 産卵できる砂浜保全のため、堆砂垣 <small>たいさがき</small> (砂を受け止める竹のフェンス)を 親子、企業、海岸利用者など多くの参 加者と共に設置。豊橋市及び田原市 で約4,500人が参加。

番号	団体名 (主な活動場所)	取組名称	取組概要
6	株式会社加藤建設 (蟹江町)	エコミーティング ～建設業から見た生 物多様性保全～	エコミーティング(受注した工事 現場にて多様な視点で自然環境配慮 を検討)を実施し、希少種の保護等の 生物多様性に配慮した工事に力を入 れている。社員に専門知識の習得を 推進(ビオトープ管理士(全社員の 50%以上))。
7	環境ボランティア サークル亀の子隊 (田原市)	きれいな海を守る心 を広げるためのプロ ジェクト	西の浜(田原市)において、きれい な海を守りたいと、1998年から毎月 クリーンアップ活動を継続して実 施。磯の観察会等の体験的環境学習 も併せて行い、多くの人々に活動の 輪が広がった。
8	株式会社三五 ^{さんご} (名古屋市熱田 区)	森と水辺の生態系保 全～自然と共生する 企業を目指す株式会 社三五～	自社工場跡地の土壌を浄化し、森 と水辺、田んぼなどの里山環境を名 古屋の中心地域であるEC035に復元。 また、みよし市をはじめ国内外での 植樹活動を実施。
9	島を美しくつくる 会 (西尾市)	藻場の再生(アマモの 移植活動)	2001年から佐久島の豊かな海を再 生するため、島に残されたアマモ場 から浅瀬に株を移植し、藻場の再生 を実施。島の中学生が活動に中心的 に関与。島民に加え、島外のボラン ティアも参加。
10	ソニーグローバル マニュファクチャ リング&オペレー ションズ株式会社 幸田サイト (幸田町)	企業緑地の再生と緑 地を活用した貢献活 動	2008年から工場敷地(ソニーの森) で、社員ボランティアによりフクロ ウの棲む森づくり活動として、間伐 やえさとなる小動物のすみかづくり を行う。その結果、2010年からフクロ ウが毎年誕生。2011年から在来種苗 木づくりを開始し、学校等に植樹。

番号	団体名 (主な活動場所)	取組名称	取組概要
11	トヨタ車体株式会社 (刈谷市)	ふれ愛パークを拠点とした産官学民の連携による地域に根付く生物多様性保全活動	自然と調和する工場を目指し、ビオトープ、田畑等からなる「刈谷ふれ愛パーク」を2014年にオープン。目標とする生物を定め、モニタリングを行うと共に、地域と協力しながら、維持管理や環境教育を行うなど、質の高いビオトープを形成。
12	豊橋市教育委員会、豊橋湿原保護の会、豊橋自然歩道推進協議会 (豊橋市)	^{いもう} 葦毛湿原大規模植生回復作業	行政、ボランティア、専門家、企業の協力により、森林化が進んだ湿原の再生事業を2013年1月から実施。保全生態学の成果と考古学の発掘調査技術を融合させ、埋土種子を効率よく発芽させる新たな方法で、カガシラ、ヒメミミカキグサをはじめ14種の希少な植物が復活した。
13	なごや生物多様性保全活動協議会 (名古屋市全域)	なごやの生物多様性保全活動	なごやに生息・生育する生物やその環境を継続的に調査し、身近な自然の保全を市民・専門家・行政の協働により実践。池干し、生きもの一斉調査、夏休みのサマースクールには9年間で9,000人以上が参加。
14	愛知県立南陽高等学校 (名古屋市港区)	生物多様性保全を目指した地域と社会に貢献するSDGsの取組～フェアトレード、カーボン・オフセット、COOL CHOICEを活用した実践～	地元の企業等と協力し、SDGsに貢献するフェアトレード商品を開発。売り上げの一部を学校近隣の藤前干潟と渡り鳥で繋がるフィリピンのマングローブ林の植林活動に寄付し、世界の生物多様性保全に貢献。
15	ネイチャークラブ 東海 (長久手市)	絶滅危惧種「ギフチョウ」の保全保護活動（環境学習プログラムとして）	愛・地球博公園内で、2011年から森林生態系の再生と復元を目指し、ギフチョウの保全活動、湿地でのシラタマホシクサの復元作業等を実施。これらの作業は、人材育成を目指し、一般の県民と協働して実施。

番号	団体名 (主な活動場所)	取組名称	取組概要
16	農業文化園・戸田川緑地 指定管理者 チーム YMO (公益財団法人名古屋のみどりの協会、株式会社山田組、株式会社オオバ) (名古屋市港区)	“農とみどりのわくわくマイパーク”～農業文化園・戸田川緑地における里山的自然空間の保全とそれを活用した環境学習プログラムの実施～	農業公園の「農業文化園」と都市公園の「戸田川緑地」を一体的に管理運営。市民・企業・行政の協働による「なごや西の森づくり」事業は20年目を迎えた。この他、自然観察会、外来生物の防除等、多様な取り組みを実施。
17	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 (名古屋市港区)	藤前干潟クリーン大作戦・流域交流と「ごみと水を考える集い」	藤前干潟と河口部で、2004年から年2回、合計31回の清掃活動を市民・企業・学校・行政の協働で開催。延べ37,770人が参加。63ヘクタールのヨシ原の保全活動と漂着ごみゼロをめざし「ごみと水を考える集い」を毎年開催。
18	特定非営利活動法人藤前干潟を守る会 (名古屋市港区)	藤前干潟の保全活動	藤前干潟で、野鳥、底生生物を含めた生態系全体の保全活動として、干潟観察会、シンポジウム等を実施。水質調査で干潟の浄化機能を明らかにし、干潟・湿地の重要性を広めた。
19	山崎川グリーンマップ、「あいちの海」グリーンマップ (名古屋市瑞穂区)	地域の子どもたちによる、昔の様子聞き取り調査	子どもたちが、名古屋市山崎川周辺、南知多町大井・片名地区のお年寄りに、戦前から現在までの地域の自然の移り変わりをヒアリングし、冊子にまとめた。絶滅した生き物や環境の変化等貴重な情報が得られた。
20	株式会社山田組 (名古屋市守山区)	東谷山・天空のアグリパークにおける生物多様性を重視した環境保全型農業の実践と都市農業とふれあえる場の創出	都市近郊の自然が残る東谷山のふもとの約7,500平方メートルの農地で、生物多様性を重視した環境保全型農業により果樹を栽培し、農業と触れ合える場を新たに創出。